

病 院 名	ページ (通し番号)
公的医療機関等 2025 プラン (公立病院)	
山陽小野田市民病院	1
美祢市立病院	9
美祢市立美東病院	17
医療機関 2025 プラン	
宇部協立病院	27
セントヒル病院	31
宇部記念病院	35
尾中病院	39
厚南セントヒル病院	43
宇部仁心会病院	47
宇部リハビリテーション病院	51
宇部西リハビリテーション病院	55
シーサイド病院	59

(別添)

山陽小野田市民病院  
公的医療機関等2025プラン  
(公立病院)

平成30年10月策定

【山陽小野田市民病院の基本情報】

医療機関名：山陽小野田市民病院

開設主体：山陽小野田市長

所在地：山陽小野田市大字東高泊1863番地1

許可病床数：215床

（病床の種別）一般病床

（病床機能別）急性期

稼働病床数：215床

（病床の種別）一般病床

（病床機能別）急性期

診療科目：内科、神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、  
放射線科、泌尿器科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、  
麻酔科、歯科口腔外科

職員数：平成30年4月1日現在

- ・ 医師 27人
- ・ 看護職員 177人
- ・ 専門職 37人
- ・ 事務職員等 26人

指定等

救急告示病院

病院群輪番制病院

山口県DMA T指定病院

## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域の現状

#### ・地勢等

本圏域は、宇部市、美祢市、山陽小野田市の3市で構成されており、面積は、県全体の14.6%を占めている。地理的には、瀬戸内海沿岸部に市街地等が集中する一方、北部は山間地が多く、過疎化が進んでいる。

#### ・人口

人口は、平成22年(2010年)の266,952人が、平成37年(2025年)には238,710人(平成22年比-10.6%)、平成52年(2040年)には204,329人(同-23.5%)に減少すると予測されている。一方、75歳以上人口は、平成22年(2010年)の37,720人が、平成37年(2025年)には50,431人(同+33.7%)に増加した後、平成52年(2040年)には45,993人(同+21.9%)に減少すると予測されている。

(人口は国立社会保障・人口問題研究所の2018年3月推計による。)

#### ・医療機関・病床の状況

平成29年(2017年)10月現在、本圏域には、29の病院と215の一般診療所、129の歯科診療所、155の薬局がある。また、平成29年度(2017年度)病床機能報告結果によると、高度急性期796床、急性期1,530床、回復期395床、慢性期1,783床となっており、回復期の病床が極端に少ない状況にある。本圏域には、高度急性期・急性期医療を担うDPC病院が3病院の他に、隣接する山口市や長門市にDPC病院があるが、美祢市の一部地域では病院までの移動に60分以上を要する地域がある。

(医療機関の状況は日本医師会の地域医療情報システム、病床機能報告結果は平成30年8月31日現在の数値による。)

### ② 構想区域の課題

この医療圏は、病床過剰であると指摘されているが、その病床の多くは宇部地区に存在し、山陽小野田地区にはむしろ病床数が乏しい状態である。このため、市内の入院を要する患者の多くは市外に入院している。

その他、区域の課題については以下のとおりである。(山口県地域医療構想から)

- ・山口大学医学部附属病院による全県的な高度・専門医療の確保及び圏域内の医療機関との連携による圏域の医療提供体制の構築
- ・救急医療を担う医療機関の役割分担、相互連携の推進
- ・救急医療の役割分担、相互連携についての住民への普及、理解促進
- ・地域包括ケア病棟の整備、急性期病床からの転換等による回復期機能の確保
- ・訪問診療等の在宅医療に取り組む医療機関(かかりつけ医等)の確保
- ・患者の容態変化時の入院対応など後方支援病院の確保
- ・多職種連携による地域包括ケアシステムの構築
- ・医療従事者の高齢化等に対応した医師、薬剤師、看護師等、医療従事者の確保(特に訪問看護ステーションに従事する看護師の確保)
- ・介護従事職員の人材確保
- ・へき地や医療機関への通院に時間を要する地域(特に美祢市)での医療の確保

### ③ 自施設の現状

#### 基本理念

「誠実」「公正」「連携」

#### 基本方針

親しみやすく、思いやりのある医療を誠実に行います。

全人的かつ専門的で、良質な医療を行います。

患者さんの気持ちと権利を尊重し、心温かい療養環境を提供します。

市民病院としての使命を自覚し、患者さんのニーズに適切にお応えします。

保健・医療・福祉・介護の連携を推進します。

#### 診療実績

届出入院基本料 10対1入院基本料

項目	病床稼働率	平均在院日数	紹介率	1日平均外来患者数
平成27年度	82.7%	15.0日	24.0%	434人
平成28年度	82.9%	15.3日	25.6%	405人
平成29年度	84.7%	14.5日	28.7%	408人

項目	救急搬送受入件数	消防局管内における救急搬送受入割合
平成27年度	713件	8.9%
平成28年度	756件	9.4%
平成29年度	752件	9.5%

#### 自施設の特徴

山口大学医学部附属病院の高度急性期機能を補完する一般病院

山口労災病院と小野田赤十字病院の間の中間的な急性期病院

種々の合併症患者にも対応ができる腎・透析センターを保有する病院

産婦人科医師及びスタッフが充実した地域の中核的な分娩取扱い病院

市内の介護・福祉施設の嘱託医として在宅診療に貢献する病院

### ④ 自施設の課題

#### ・医師の確保

市民病院は、これまで山口大学の医局から紹介・派遣してもらう方法で医師を確保してきた。ところが、平成16年度に新しい医師臨床研修制度が開始され、山口大学医局が医師不足に直面することとなり、容易に医師を紹介・派遣してもらえなくなっている。幸いに当院は山口大学医学部から距離的に近いこともあり、非常勤医師の協力を得ているが、常勤医師は不足しており、その確保が課題である。

#### ・救急医療

今後も救急医療を支える体制を維持することが当院の使命と認識している。年々医師の高齢化とともに勤務環境が厳しさを増している現状では、休日・夜間の対応すらも厳しい状況にあるが、他の病院と協力しながら救急医療の一端を担わなければならない。一方、住民に対して救急対応に疲弊しつつある病院、あるいは医師や医療スタッフの実状を理解していただき、住民とともに望ましい救急体制を構築する啓発活動を行う必要があり、市の健康福祉部を中心に

行っている。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

・第7次山口県保健医療計画で示された5疾病のうち4疾病については、これまで予防、急性期医療、回復期医療を通じて専門的治療を行ってきた。今後もこの体制を維持し、市民が気軽に受診でき、継続的かつ安定的に安心・安全、健康な暮らしを守る良質な医療を提供することが、地域に開かれた病院としての役割と考えている。

・市民病院は市の一部門であることから、患者の実生活を把握している保健衛生や福祉行政部門と緊密な連携をとって在宅医療につなげていく。

・公立病院である市民病院では、介護保険事業との整合性を確保しつつ、在宅療養後方支援病院として緊急時の一時入院に必要な後方病床の確保等、積極的に在宅療養の支援を行う。

・この区域においてお産ができる公的病院は他にないことから、安心して受診できる病院としてお産の数を増やして地域医療に貢献する。

・透析患者を総合的に診療できることから、手術を必要とする患者が一時的に転院してくることも多く、今後もこの機能を維持することで地域医療に貢献する。

・特別養護老人ホームサンライフ山陽、小野田老人ホームで、訪問による健康管理及び医学的処置を行っている。また、指定障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所の予防接種や健診を実施しており、これらをもって地域に貢献する。

・山陽小野田市の3つの公的病院（山口労災病院、小野田赤十字病院、山陽小野田市民病院）が、機能を分担しながら医師会と連携して地域医療を確保する。

・公立病院として山陽小野田市地域防災計画の医療救護活動体制を確立し、災害時における市民の安心・安全を確保する。また、災害拠点病院の指定に向け整備を進めており、災害医療体制の強化を図る。

・厚狭准看護学院、山口県鴻城高等学校への講師派遣のほか、助産学実習、薬学部学生の実習等、様々な職種の実習を実施することで医療従事者の養成に貢献する。

② 今後持つべき病床機能

・当面、急性期病床を維持し、在宅患者の急変時における急性期医療を担っていく。

③ その他見直すべき点

・高齢化の進展に伴う認知症患者の増加への対応を検討する必要がある。

・リハビリ機能を拡充することで在宅に向けた取組みを進める必要がある。

・小児科の常勤医を確保する必要がある。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

現在、将来の病床数欄は、平成30年度病床機能報告予定数値を記入

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	215		215
回復期			
慢性期			
休棟等			
(合計)	215		215
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度 (実績)	山陽小野田市病院事業改革 プラン改訂案検討	同プラン改訂	
2018年度	公的医療機関等2025プラン 検討	同プラン策定	
2019～2020 年度	地域医療構想調整会議にお ける検討	地域医療構想調整会議にお ける合意形成	
2021～2023 年度	同上	同上	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	精神科
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：86.5%
- ・ 紹介率：35.0%以上
- ・ 逆紹介率：37.0%以上
- ・ 平均在院日数：17.0日
- ・ 救急搬送受入件数：735件

経営に関する項目

- ・ 人件費率：57.4%以下
- ・ 医師数：30人

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)



美祢市立病院  
公的医療機関等2025プラン  
(公立病院)

平成30年10月 策定

【美祢市立病院の基本情報】

医療機関名：美祢市立病院

開設主体：美祢市

所在地：山口県美祢市大嶺町東分1313番地1

許可病床数：138床

(病床の種別)

一般病床 89床 (うち地域包括ケア病床 30床)

療養病床 49床

(病床機能別)

急性期病床 59床

地域包括ケア病床 30床

慢性期病床 49床

稼働病床数：

(病床の種別)

一般病床 89床 (うち地域包括ケア病床 30床)

療養病床 49床

(病床機能別)

急性期病床 59床

地域包括ケア病床 30床

慢性期病床 49床

診療科目：

内科、外科、整形外科、脳神経外科、放射線科、小児科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、眼科、皮膚科、精神科、麻酔科

職員数：2018年9月1日現在

	医師	看護職員	専門職員	事務職員	その他職員	合計
常勤	8	69	25	10	16	128
非常勤	29	13	0	0	6	48
計	37	82	25	10	22	176

## 【1. 現状と課題】

### (1) 構想区域の現状

#### ① 地勢等

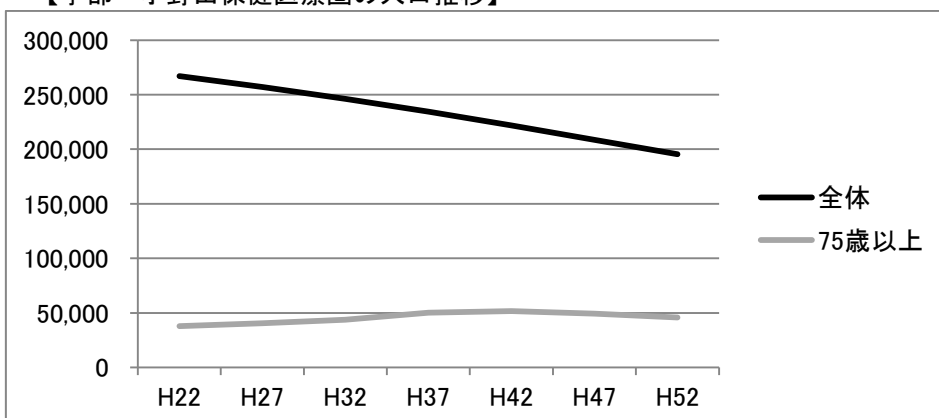
本圏域は、宇部市、山陽小野田市、美祢市の3市で構成されており、面積は、県全体の14.6%を占めている。

地理的には、瀬戸内海沿岸部に市街地等が集中する一方、北部は山間地が多く、過疎化が進んでいる。

#### ② 人口

人口は、平成22年(2010年)の266,952人が平成37年(2025年)には234,351人(平成22年(2010年)比-12.2%)、平成52年(2040年)には195,395人(同-26.8%)に減少すると予測されている。一方、75歳以上人口は、平成22年(2010年)の37,720人が、平成37年(2025年)には50,225人(同+33.2%)に増加した後、平成52年(2040年)には45,619人(同+20.9%)に減少すると予測されている。

#### 【宇部・小野田保健医療圏の人口推移】



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

#### ③ 医療機関・病床の状況

本圏域には、30の病院と246の一般診療所、135の歯科診療所、162の薬局がある。

病床数は、下記の表「宇部・小野田保健医療圏の病床数」に示すとおり、回復期の病床が6.4%と少ない状況にある。本圏域には、高度急性期・急性期医療を担うDPC病院が3病院あるが、美祢市の一部地域では病院までの移動に60分以上を要する地域がある。

#### 【宇部・小野田保健医療圏の医療機関・薬局数】

	病院		一般診療所			歯科診療所		薬局	
	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対	有床施設数	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対
圏域	30	11.6	246	94.8	17	135	52.0	162	62.4
全県	147	10.4	1,274	90.5	142	679	48.2	826	58.6

出典：病院、一般診療所 厚生労働省「医療施設調査」（平成26年10月1日現在）

薬局 厚生労働省「衛生行政報告例」（平成26年12月末現在）、山口県調査（平成28年1月1日現在）

#### 【宇部・小野田保健医療圏の病床数 ※平成27年病床機能報告結果】（単位：床）

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	未選択	合計
742 (16.2%)	1,661 (36.3%)	292 (6.4%)	1,882 (41.4%)	60	0	4,637

④ 平成37年（2025年）における医療需要及び必要病床数

平成25年度（2013年度）のレセプトデータ等を基に、医療法施行規則及び厚生労働省通知の計算式により算出した、平成37年（2025年）の医療需要及び必要病床数の推計結果は以下のとおりである。

	医療需要 （患者所在地） （人/日）	現在の医療提供体制が 変わらないと仮定した場 合の他の構想区域に所在 する医療機関により提供 される量を増減したもの （医療機関所在地） （人/日）	将来のあるべき医療提供 体制を踏まえ他の構想区 域に所在する医療機関に より供給される量を増減し たもの （人/日）	必要病床数 （床）
高度急性期	203	246	246	328
急性期	731	818	731	937
回復期	791	861	791	879
慢性期	979	984	979	1,064
計	2,704	2,909	2,747	3,208
平成37年（2025年）の在宅医療等の医療需要（人/日）				4,254

(2) 構想区域の課題

- 山口大学医学部付属病院による全県的な高度・専門医療の確保及び圏域内の医療機関との連携による圏域の医療提供体制の構築
- 救急医療を担う医療機関の役割分担、相互連携の推進
- 救急医療の役割分担、相互連携についての住民への普及、理解促進
- 地域包括ケア病棟の整備、急性期病床からの転換等による回復期機能の確保
- 訪問診療等の在宅医療に取り組む医療機関（かかりつけ医等）の確保
- 患者の容態変化時の入院対応など後方支援病院の確保
- 多職種連携による地域包括システムの構築
- 医療従事者の高齢化等に対応した医師、薬剤師、看護師等、医療従事者の確保（特に訪問看護ステーションに従事する看護師の確保）
- 介護従事職員の人材確保
- へき地や医療機関への通院に時間を要する地域（特に美祿市）での医療の確保

### (3) 自施設の現状

#### 【基本理念】

市民に信頼され、思いやりのある医療を提供します。

#### 【基本方針】

1. 医療安全に十分配慮した、良質な医療の提供に努めます。
2. 職員は常に、医療の質およびサービスの向上に向けた努力を続けます。
3. 患者さんの希望に沿った医療を目指します。
4. 救急および急性期医療をはじめ、回復期医療、慢性期医療、在宅医療までの一貫した医療の提供に努めます。
5. 地域の医療機関および施設、さらに保健および福祉行政と連携・協力し、医療、介護、健診の増進に努めます。

#### 【診療実績】

##### ① 入院基本料

10対1の一般病棟89床を運営し、このうち30床を在宅復帰に向けた地域包括ケア病床（入院医療管理料2）として運営している。

療養病棟（経過措置25対1）49床を運営している。

##### ② 病床利用率

	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29
病床利用率（％）	82.4	82.7	74.0	76.7	80.8

#### 【自施設の特徴】

本院は、一般病床89床（うち地域包括ケア病床30床）と療養病床49床の機能をもったケアミックス型の病院である。

平成15年までは全て一般病床であったが、高齢化社会への対応や地域のニーズを踏まえ、一部を療養病床に転換した。更に、平成26年から一般病床のうち地域包括ケア、回復期機能を有する地域包括ケア病床8床を導入し、現在に至っている。

また、平成29年から退院後、在宅療養をされている患者に対して訪問診療、訪問薬剤も開始した。さらに本院併設の介護老人保健施設もある。

こうしたことにより、急性期を脱した高齢の患者が転院することなく、当院の基本方針のひとつである「救急および急性期医療をはじめ、回復期医療、慢性期医療、在宅医療までの一貫した医療の提供に努めます。」ということが可能になった。

### (4) 自施設の課題

#### ① 美祿市の医療需要・患者像に対応する医療機能の整備

当院の現状に適合する医療機能の変更・整備を進めていく必要がある。

#### ② 医師の確保

常勤医師不足は基より、常勤医師の高齢化が進んでおり、医師が疲弊している。地域医療の医療需要に十分対応するためにも、常勤医師の確保が重要課題である。

#### ③ 看護師の確保

当院は平成2年（1990年）4月に開設され、開設当初からいる看護師の高齢化が進んでおり、定年退職した看護師の補充も十分にできていない状況である。美祿市として市内の医療機関に一定年勤務すれば奨学金の返還免除となる看護学生を対象とした奨学金貸付制度を制定したが、それでも看護師が不足している状況である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. (1) ~ (4) を踏まえた、具体的な方針について記載

(1) 地域において今後担うべき役割

宇部・小野田保健医療圏の中でも、美祢市は、より高齢化が進んでおり、65歳以上の人口は平成32年（2020年）、受療率がより高くなる75歳以上の人口は平成42年（2030年）頃にピークを迎えることから、高齢者の医療需要の増加に特に留意して対応する必要がある。なお、このような高齢者の増加の一方で総人口の減少もあることから、2025年に向けて、美祢市の医療需要全体としてはほぼ横ばいで推移する。また、医療供給面においては中山間地域である美祢市においては、一般病床・療養病床を有しているのは当院と美祢市立美東病院のみである。

したがって、特に高齢者にとってアクセスの良い身近な病院として、急性期・回復期・慢性期医療の提供や在宅医療の支援等多様な機能をもつことによって、美祢市の医療需要に柔軟に対応することが、当院の担うべき役割となる。

(2) 今後持つべき病床機能

①総括

地域において今後担うべき役割から、急性期医療から回復期医療・慢性期医療までの地域密着・ケアミックス型の機能にしていく。

②急性期

中山間地域であり民間病院にない美祢市では、急性期医療、特に救急医療の確保が必要であるため、一般病床については、最低限の運営ができる病棟を維持する必要がある。

③回復期

自院から高度急性期病院等に紹介した患者の急性期治療を経過した患者、在宅療養・施設で急に容態が悪くなった在宅患者を受け入れ、患者の在宅復帰支援を行う必要がある。現在、急性期病棟に一部地域包括ケア病床を有しているが、今後、病床から病棟に再編していくことを検討する。

④慢性期

療養病棟は、現在、医療型療養病床（経過措置25対1）が49床ある。今後、美祢市の医療需要や国の動向（診療報酬・介護報酬の改定）等を踏まえて療養病棟について、医療型療養病床（20対1）、介護医療院への転換を検討していく。

(3) その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. (1) ~ (3) を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	89(内地域包括ケア30床)		36
回復期	0		50
慢性期	49		49
休棟等	0		0
(合計)	138		135
介護保険施設へ移行予定	—		※慢性期49の内24
うち、介護医療院	—		※慢性期49の内24

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度 (実績)	自施設の役割について地域医療構想調整会議において関係者と協議	自施設の今後の病床のあり方を検討	集中的な検討を促進 2年間程度で
2018年度	協議の結果を踏まえ具体的な病床計画を策定	自施設の病床のあり方について地域医療構想調整会議において合意を得る	
2019~2020 年度			第7期 介護保険 事業計画 第7次医療計画
2021~2023 年度			第8期 介護保険 事業計画

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：90%以上（H29実績 80.9%）
- ・ 手術室稼働率：手術件数を指標としている。  
140件以上（H29実績 134件）
- ・ 紹介率：35%以上（H29実績 46.1%）
- ・ 逆紹介率：18%以上（H29実績 19.1%）

経営に関する項目\*

- ・ 人件費率：対医業収益（人件費に退職給与金を含む。）  
67%以下（H29実績 71.4%）
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：  
0.35%以上（H29実績 0.31%）

その他：

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

（自由記載）



美祢市立美東病院  
公的医療機関等2025プラン  
(公立病院)

平成30年10月 策定

【美祢市立美東病院の基本情報】

医療機関名：美祢市立美東病院

開設主体：美祢市

所在地：山口県美祢市美東町大田3800番地

許可病床数：100床

（病床の種別）

一般病床 60床（うち地域包括ケア病床12床）

療養病床 40床（うち介護療養型病床6床）

（病床機能別）

急性期病床 48床

地域包括ケア病床 12床

慢性期病床 40床

稼働病床数：

（病床の種別）

一般病床 60床（うち地域包括ケア病床12床）

療養病床 40床（うち介護療養型病床6床）

（病床機能別）

急性期病床 48床

地域包括ケア病床 12床

慢性期病床 40床

診療科目：

内科、外科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、婦人科、リハビリテーション科

職員数：2018年9月1日現在

	医師	看護職員	専門職員	事務職員	その他職員	合計
常勤	6	45	15	6	9	81
非常勤	31	9	4	6	9	59
計	37	54	19	12	18	140

【1 現状と課題】

(1) 構想区域の現状

① 地勢等

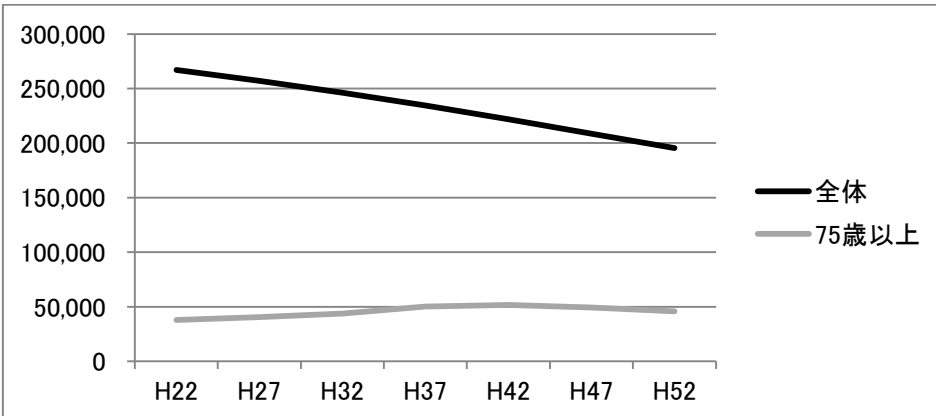
本圏域は、宇部市、山陽小野田市、美祢市の3市で構成されており、面積は、県全体の14.6%を占めている。

地理的には、瀬戸内海沿岸部に市街地等が集中する一方、北部は山間地が多く、過疎化が進んでいる。

② 人口

人口は、平成22年（2010年）の266,952人が平成37年（2025年）には234,351人（平成22年（2010年）比-12.2%）、平成52年（2040年）には195,395人（同-26.8%）に減少すると予測されている。一方、75歳以上人口は、平成22年（2010年）の37,720人が、平成37年（2025年）には50,225人（同+33.2%）に増加した後、平成52年（2040年）には45,619人（同+20.9%）に減少すると予測されている。

【宇部・小野田保健医療圏の人口推移】



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

③ 医療機関・病床の状況

本圏域には、30の病院と246の一般診療所、135の歯科診療所、162の薬局がある。

病床数は、下記の表「宇部・小野田保健医療圏の病床数」に示すとおり、回復期の病床が6.4%と少ない状況にある。本圏域には、高度急性期・急性期医療を担うDPC病院が3病院あるが、美祢市の一部地域では病院までの移動に60分以上を要する地域がある。

【宇部・小野田保健医療圏の医療機関・薬局数】

	病院		一般診療所			歯科診療所		薬局	
	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対	有床施設数	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対
圏域	30	11.6	246	94.8	17	135	52.0	162	62.4
全県	147	10.4	1,274	90.5	142	679	48.2	826	58.6

出典：病院、一般診療所 厚生労働省「医療施設調査」（平成26年10月1日現在）

薬局 厚生労働省「衛生行政報告例」（平成26年12月末現在）、山口県調査（平成28年1月1日現在）

【宇部・小野田保健医療圏の病床数 ※平成27年病床機能報告結果】（単位：床）

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	未選択	合計
742 (16.2%)	1,661 (36.3%)	292 (6.4%)	1,882 (41.4%)	60	0	4,637

④ 平成37年（2025年）における医療需要及び必要病床数

平成25年度（2013年度）のレセプトデータ等を基に、医療法施行規則及び厚生労働省通知の計算式により算出した、平成37年（2025年）の医療需要及び必要病床数の推計結果は以下のとおりである。

	医療需要 （患者所在地） （人/日）	現在の医療提供体制が 変わらないと仮定した場 合の他の構想区域に所在 する医療機関により提供 される量を増減したもの （医療機関所在地） （人/日）	将来のあるべき医療提供 体制を踏まえ他の構想区 域に所在する医療機関に より供給される量を増減し たもの （人/日）	必要病床数 （床）
高度急性期	203	246	246	328
急性期	731	818	731	937
回復期	791	861	791	879
慢性期	979	984	979	1,064
計	2,704	2,909	2,747	3,208
平成37年（2025年）の在宅医療等の医療需要（人/日）				4,254

(2) 構想区域の課題

- 山口大学医学部付属病院による全県的な高度・専門医療の確保及び圏域内の医療機関との連携による圏域の医療提供体制の構築
- 救急医療を担う医療機関の役割分担、相互連携の推進
- 救急医療の役割分担、相互連携についての住民への普及、理解促進
- 地域包括ケア病棟の整備、急性期病床からの転換等による回復期機能の確保
- 訪問診療等の在宅医療に取り組む医療機関（かかりつけ医等）の確保
- 患者の容態変化時の入院対応など後方支援病院の確保
- 多職種連携による地域包括システムの構築
- 医療従事者の高齢化等に対応した医師、薬剤師、看護師等、医療従事者の確保（特に訪問看護ステーションに従事する看護師の確保）
- 介護従事職員の人材確保
- へき地や医療機関への通院に時間を要する地域（特に美祿市）での医療の確保

(3) 自施設の現状

① 美祢市の医療需要

宇部・小野田医療圏の中でも、より高齢化の進んでいる美祢市において、65歳以上人口は平成32年(2020年)、受療率がより高くなる75歳以上人口は平成42年(2030年)頃にピークを迎えることから、高齢者の医療需要の増加に特に留意して対応する必要がある。

なお、このような高齢者の増加の一方で総人口の減少もあることから、2025年に向けて、美祢市の医療需要全体としてはほぼ横ばいで推移する。

② 美祢市の医療供給体制(特に入院機能)

中山間地域である美祢市においては、一般病床・療養病床を持つのは当院と美祢市立病院のみである。

③ 基本的な医療機能

ア 病床数100床

一般病床60床(うち地域包括ケア病床12床)

療養病床40床(うち介護療養型病床6床)

イ 医師数 6名

看護師数 54名(非常勤を含む)

ウ 看護配置 一般病床 10:1

療養病床 20:1

エ 指定病院 救急告示

④ 患者の流れ

当院では、旧美東・秋芳地区居住者の利用が約90%を占めており、同病院から専門病院に紹介する場合は、山口・防府保健医療圏に属する高度急性期又は急性期機能を有する医療機関への紹介がほとんどである。

よって、美祢市全域は1市2町合併により宇部・小野田保健医療圏に入っているが、現在でも合併前と変わらない患者の流れとなっている。

⑤ 患者数

下記の表のとおり、患者数の減少がみられる。

【1日当たりの患者数】

(人)

		H24	H25	H26	H27	H28	H29
入院患者数	一般	55.2	53.4	47.7	47.0	48.3	46.5
	療養	34.0	32.7	35.4	32.7	34.3	32.8
外来患者数		140.4	135.5	132.3	135.0	124.0	125.8

⑥ 患者の年齢構成

下記の表のとおり、入院においては96.4%、外来においては約82.8%を65歳以上の高齢者が占めている。

【年齢別利用者(H29年実績;延患者数)】

(人)

	入院	外来
19歳以下	0	308
20~64歳	1,033	4,972
65歳以上	27,916	25,422
合計	28,949	30,702

⑦ 診療状況

高齢の患者の特徴として、1人で多くの疾患を持っている、慢性的な疾患を持っていることが挙げられる。このため、医師は消化器内科・外科などの専門を持ちつつ、実際にはほとんどの疾患の初期対応をし、その診断結果に基づいて、継続診療または専門病院への紹介を行っている。これは当院の医師が専門医としての役割を果たしつつ、いわゆる総合

診療医としての機能をも担っていると評価できる。

さらに、高齢の患者は、できるだけ移動距離が少ないことを希望する傾向があり、面積の広い本市において、ほとんどの疾患を診る貴重な機能を担っていると言える。

#### (4) 自施設の課題

##### ① 美祢市の医療需要・患者像に対応する医療機能の整備とその周知

上記の当院の現状に適合する医療機能の変更・整備を進めていく必要がある。

また、地域住民に当院の機能について周知を図り、十分に活用してもらうことによって、経営の安定化に結び付けることが重要である。

##### ② 医師の確保

常勤医師不足は基より、常勤医師の高齢化が進んでおり、定年を数年後に迎える医師もいる。地域の医療需要に十分対応するためにも、常勤医師の確保が重要課題である。

##### ③ 看護師の確保

現在、常勤を含めて看護師を随時募集しているが、新規に応募する看護師は非常に少ない。美祢市として市内の医療機関に一定年勤務すれば奨学金の返還免除となる看護学生を対象とした奨学金貸付制度や看護学校等への積極的な訪問などを行っているが、十分な確保には至っていない。

## 2 今後の方針

### (1) 地域において今後担うべき役割

上記の現状・課題をふまえると、特に高齢者にとってアクセスの良い身近な病院として、急性期・回復期・慢性期医療の提供や在宅医療の支援等多様な機能をもつことによって、美祢市の医療需要に柔軟に対応することが、当院の担うべき役割となる。

(2) 今後持つべき病床機能

① 総括

地域において今後担うべき役割から、急性期医療から回復期医療・慢性期医療までの地域密着・ケアミックス型の機能にしていく。

② 急性期

中山間地域であり民間病院の無い美祢市では、急性期医療、特に救急医療の確保が必要であるため、一般病床については最低限の運営ができる病棟を維持する。

③ 回復期

当院から高度急性期病院等に紹介した患者の急性期治療を経過した患者、在宅療養・施設で急に容態が悪くなった患者を受け入れ、患者の在宅復帰支援を行う必要がある。平成30年9月1日より、特に高齢者ニーズに対応できる地域包括ケア病床を8床から12床に増床したが、更に増床していくことを検討していく。

④ 慢性期

療養病棟については、医療型療養病床が40床（うち介護療養型病床6床）あるが、このうち経過措置がある介護療養型病床の介護医療院への転換を検討していく。

3 その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

1 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	60 (うち地域包括ケア病床12床)		60 (うち地域包括ケア病床12床)
回復期	0		0
慢性期	40		34
休棟等	0		0
(合計)	100		100
介護保険施設へ移行予定	—		6
うち、介護医療院	—	6	

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度 (実績)	自施設の役割について地域医療構想調整会議において関係者と協議	自施設の今後の病床のあり方を検討	
2018年度	協議の結果を踏まえ具体的な病床計画を策定	自施設の病床のあり方について地域医療構想調整会議において合意を得る	
2019～2020 年度			
2021～2023 年度			



## 2 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

## 3 その他の数値目標について

### 医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：87%以上（H29実績 79.3%）
- ・ 手術室稼働率：手術件数を指標としている。  
40件以上（H29実績 29件）
- ・ 紹介率：50.0%以上（H29実績 39.8%）
- ・ 逆紹介率：33.0%以上（H29実績 33.5%）

### 経営に関する項目\*

- ・ 人件費率：対医業収益（人件費に退職給与金を含む。）  
77.2%以下（H29実績78.6%）
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：  
0.5%以上（H29実績 0.47%）

その他：

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

### 【4. その他】

（自由記載）

# 宇部協立病院

## 医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	宇部協立病院
開設主体	医療生活協同組合健文会
所在地	宇部市五十目山町16-23
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	159床 一般病床 105床、療養病床 54床 急性期 83床、回復期 22床、慢性期54床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	159床 一般病床 105床、療養病床 54床 急性期 83床、回復期 22床、慢性期54床
診療科目	内科、消化器、循環器、呼吸器、精神、放射線、外科、肛門、 整形外科、リウマチ、リハビリテーション、糖尿病内分泌科、総合診療科
職員数	254.5人
・ 医師	14.5人(常勤10、非常勤2)
・ 看護職員	113人
・ 専門職	41人
・ 事務職員	38人
・ その他	48人

## 【1. 現状と課題】

### ① 自施設の現状

届出入院基本料 一般病棟入院基本料6、地域包括ケア入院医療管理料1

平均在院日数 17.3日、病床稼働率 86.8%

### 【特徴】

在宅療養支援病院（在宅医療の実施、在宅支援診療所との連携）

2次救急担当日数：57日（2018年度） 年間救急車受入台数：744台（2017年実績）

### ② 自施設の課題

- ・急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる回復期病床整備に向けて、当院の役割を検討
- ・今後ますます増加が予測される在宅医療の継続
- ・宇部小野田美祢圏域の2次救急を継続するため、救急体制の維持

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

### ① 地域において今後担うべき役割

- ・地域包括ケア病棟を展開することにより、地域における回復期機能の一翼を担う。
- ・強化型在宅療養支援病院として医療機関との連携強化、訪問看護STや施設等との連携強化など、在宅医療を推進していく。
- ・当院は医療圏域の救急車受入台数が5番目に多いなど一定救急医療に貢献している。今後も縮小することなく圏域の2次救急体制を継続することに努める。

### ② 今後持つべき病床機能

- ・現在の急性期病棟は一定程度維持する必要があるため、53床は維持する（105床⇒53床）
- ・回復期機能を提供する病棟の整備を実施する（地域包括ケア病棟52床）

### ③ その他見直すべき点

- ・2次救急を継続するため、病態診断機能をさらに強化する機器整備とシステムづくり。
- ・救急医療に従事する人的体制の強化。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	105		53
回復期	0		52
慢性期	54		54
休棟等	0		0
(合計)	159		159
介護保険施設へ移行予定	—		未検討
うち、介護医療院	—		未検討

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2018年度	急性期病床52床（地域包括22床含）を 地域包括ケア病棟52床へ転換	2019年1月移行予定

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】（自由記載）

--

# セントヒル病院

## 医療機関2025プラン

平成30年10月 策定

### 【基本情報】

医療機関名	医療法人聖比留会 セントヒル病院
開設主体	医療法人聖比留会
所在地	宇部市今村北三丁目7-18
許可病床数	184床
（病床の種別）	一般病床101床、療養病床 83床
（病床機能別）	急性期 87床、回復期 14床、慢性期 83床
稼働病床数	184床
（病床の種別）	一般病床101床、療養病床 83床
（病床機能別）	急性期 87床、回復期 14床、慢性期 83床
診療科目	内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、人工透析内科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、アレルギー科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科
職員数	360名
・ 医師	45名（うち常勤医師13名）
・ 看護職員	188名
・ 専門職	52名
・ 事務職員	75名

## 【1. 現状と課題】

### ① 自施設の現状

#### 届出入院基本料

- ・一般病棟 10対1入院基本料、療養病棟入院基本料 1、地域包括ケア入院医療管理料 2
- ・平均在院日数 18日 病床稼働率 88.3% (直近1年)

特徴 4機能のうち急性期が中心

### ② 自施設の課題

宇部・山陽小野田圏内に大病院が複数あり、慢性期型病院も複数ある中、当院の位置付けとして当院の役割の再検討と新病院建設による将来設計の検討が課題  
また一人診療科がほとんどであり、提供できる医療の限界がある

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①~②を踏まえた、具体的な方針について記載

### ① 地域において今後担うべき役割

- ・血液浄化治療（透析）やPET-CTを中心に当院に特徴のある部分を活かして更なる地域貢献のできる体制作りをしていく。
- ・在宅医療の協力体制作り

### ② 今後持つべき病床機能

- ・新病院建設や人口に伴い急性期病床・慢性期病床の適正病床の再検討
- ・地域包括ケア病床の拡大

### ③ その他見直すべき点

- ・二次救急医療体制の強化
- ・常勤医師の確保

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	101		101
回復期			43
慢性期	83		40
休棟等			
(合計)	184		184
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2019	地域包括ケア病床を拡大	回復期機能を充足

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

放射線治療科を廃止
-----------

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

病床稼働率>90% 等
-------------

【4. その他】(自由記載)

--

# 医療法人博愛会 宇部記念病院

## 医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

### 【基本情報】

医療機関名	医療法人博愛会 宇部記念病院
開設主体	医療法人博愛会
所在地	山口県宇部市上町1-4-11
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	190床 一般病床128床、療養病床62床 急性期66床、慢性期124床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	180床、 一般病床120床、療養病床60床 急性期60床、慢性期120床
診療科目	内科、外科、放射線科、皮膚科、性病科、循環器科、肛門科、 神経内科、泌尿器科、歯科、呼吸器科、整形外科、脳神経外科、 消化器科、リウマチ科、リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	206名 10名 92名 21名 17名



## 【1. 現状と課題】

### ① 自施設の現状

届出入院基本料：地域一般入院料 1（13対1）

障害者施設等入院基本料（10対1）

療養病棟入院基本料（20対1）

平均在院日数：地域一般入院料 1（13対1） 22.7日

障害者施設等入院基本料（10対1） 347.3日

療養病棟入院基本料（20対1） 207.3日

病床稼働率：地域一般入院料 1（13対1） 75.6%

障害者施設等入院基本料（10対1） 99.1%

療養病棟入院基本料（20対1） 88.9%

特徴：平成30年6月に介護療養型医療施設60床を介護医療院60床へ移行し、190床の病院となる。

### ② 自施設の課題

- ・60床を介護医療院に移行し、病床数200床未満となり、かかりつけ医機能及び在宅医療提供の強化を図り、在宅療養支援病院（強化型）を目指す。
- ・2次救急医療の受け入れ増強を図り、地域の在宅患者や介護事業所の利用者の救急患者受け入れを促進し、サブアキュート機能を充実する。
- ・急性期医療を受けた後の患者の受け皿となるポストアキュート機能をより充実する。
- ・現状、1病棟60床の運営に制限しているため、病院全体として10床が使用できない状況にあり、従前より改修等の工事により解消する予定であった。今後、地域で不足する回復期医療を担い、在宅療養支援病院を目指すに当たり、稼働病床を180床から190床とすることにより、当院が地域で担う医療を目指す。

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

### ① 地域において今後担うべき役割

- ・かかりつけ医機能と共に在宅医療を担い、入院医療においては、サブアキュート機能・ポストアキュート機能・在宅復帰支援を中心とした回復期医療及び療養病棟・障害者病棟の運営による慢性期医療を提供する。
- ・2次救急医療は引き続き担い充実化を図る。
- ・住民に向けて、健康づくり・介護予防教室・住民カフェの開催等の地域貢献活動に取り組む。

### ② 今後持つべき病床機能

- ・地域一般病棟（13：1）、地域包括ケア病棟、医療療養病棟、障害者病棟の4病棟の構成を検討する。

③ その他見直すべき点

・今後の医療需要の推移を判断し、近い将来に地域一般入院基本料（13：1）病棟を地域包括ケア病棟の回復期医療もしくは障害者病棟・療養病棟の慢性期医療に移行を検討する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	66		45
回復期			55
慢性期	124		90
休棟等			
(合計)	190		190
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2019	一般病床66床の内、55床を回復期病床へ転換	地域で不足する回復期機能を充足
2020～2021	慢性期病床124床を縮小し、回復期病床か一般病床へ転換	地域で不足する回復期機能の充足、又は急性期病院からの受け皿機能の充実を図る

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

# 社会医療法人 尾中病院

## 医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	社会医療法人 尾中病院
開設主体	社会医療法人 尾中病院
所在地	宇部市常盤町二丁目4番5号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	180床 一般病床 60床 療養病床 120床 急性期18床 回復期42床 慢性期120床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	180床 一般病床 60床 療養病床 120床 急性期18床 回復期42床 慢性期120床
診療科目	内科 外科 整形外科 脳神経外科 皮膚科 リハビリテーション科 放射線科 呼吸器科 胃腸科 循環器科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員 他	176名(2018年10月1日 現在) 10.9名 105.5名 34名 34.5名

## 【1. 現状と課題】

### ① 自施設の現状

届出入院基本料 地域一般入院料1 地域包括ケア入院医療管理料1 療養病棟入院基本料2  
介護療養型医療施設（機能強化型A）

平均在院日数

（2017年度実績） 一般：16.3日 医療療養：90.1日 介護療養：583.1日

病床稼働率

（2017年度実績） 一般：83.8% 医療療養：74.4% 介護療養：87.9%

特徴 4機能のうち、回復期、慢性期が中心

### ② 自施設の課題

- ・ 地域における回復期機能を充実させるため、地域包括ケア病床の増床検討が必要である。
- ・ 医療計画の中で、宇部・山陽小野田医療圏は療養病床が過剰地域となっており、近隣に同様の医療機能がある病院が複数あることから、減床を視野入れたに療養病床の適正化が必要である。
- ・ 救急告示病院としての機能を果たし、二次救急輪番体制の一翼を担う。
- ・ 施設の老朽化が進み、耐震性が確保されないため、新築移転を計画している。
- ・

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

### ① 地域において今後担うべき役割

地域包括ケアシステムにおけるハブ機能を果たし、地域に根ざした地域医療・介護連携の中心的役割を担う。医療においてはポストアキュート、サブアキュート機能を果たしていく。宇部市の中心に位置していることから、ポストアキュートとして、医療圏内の高度急性期からの紹介を積極的に受入れていく。サブアキュートとして、診療所・介護施設と連携を密にし、初期救急、慢性疾患の急性増悪の患者受入れを図る。予防としての健康診断事業、在宅復帰・社会参加支援・健康増進のための短期通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを拡充していく。予防から救急・医療・介護・在宅までシームレスなサービスを提供する。

### ② 今後持つべき病床機能

地域包括ケア病床を中心に、在宅復帰・社会参加支援を促進するとともに、長期療養が必要な高齢者の受け皿として適正な療養病床の確保と介護度が高く医療処置が必要な患者、看取りへの対応として介護医療院の整備を行う。

### ③ その他見直すべき点

- ・ 外来患者が減少傾向にあることから、当院外来機能と受入れ体制の見直しが必要。
- ・ 救急車受入れ件数が減少傾向にあるが、医療圏における二次救急輪番病院としての役割を果たすための受入れ体制の確保。
- ・ 医療療養病床の稼働率が90%に満たず、医療区分2・3割合は60～70%であるため、病床数を適正にするために減床し、医療度合の高い患者を受入れ、入院基本料の類上げを図る。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	18		18
回復期	42		42
慢性期	120		50
休棟等			
(合計)	180		110
介護保険施設へ移行予定	—		60
うち、介護医療院	—		60

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2018	地域包括ケア病床の増床 (16→42)	地域で不足する回復期機能を充足
2019	新病院新築移転	耐震化整備
"	医療療養病床の減床 (60→50)、類上げ (2→1)	地域で過剰な慢性期病床の削減
"	介護医療院へ転換	地域で必要な慢性期機能の確保

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

なし

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

【医療提供に関する項目】

病床稼働率) 一般 : 87% 医療療養 : 90% 介護療養 : 95%

【経営に関する項目】

給与費の対医業収益負荷率) 66%

材料費の対医業収益負荷率) 9%

【その他】

地域医療介護総合確保基金の活用) 平成30年度介護施設等整備補助金

【4. その他】(自由記載)

- ・ 神原、恩田、岬、見初、琴芝、新川、上宇部の6校区を地域包括ケアシステムの対象地域と考えている。(総人口 約57,000人 65歳以上の人口 約18,000人〈人口比率 32%〉)
- ・ チーム医療推進のための人材確保・育成を強化する。
- ・ 協会けんぽの施設認定をとり、中小企業従業員の健康増進を促す役目を担う(新築移転後)。また、がん検診等の提供体制を整備し、地域の健康寿命延伸に貢献する。
- ・ 健康と医療・介護に関する「情報発信施設」として、地域住民がいつでも気軽に立ち寄れる「きやすい(来やすい、気安い)、いやすい(居やすい、癒す)、話しやすい(悩み、不安の解消)」をコンセプトに地域に貢献できる開かれた病院を目指していく。

# 厚南セントヒル病院 医療機関2025プラン

平成30年10月 策定

## 【基本情報】

医療機関名	医療法人聖比留会 厚南セントヒル病院
開設主体	医療法人聖比留会
所在地	宇部市大字妻崎開作108番地
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	80床 一般病床 40床、療養病床 40床 急性期 40床、慢性期 40床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	80床 一般病床 40床、療養病床 40床 急性期 40床、慢性期 40床
診療科目	内科、循環器内科、消化器内科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	190名 25名 (うち常勤医師 6名) 96名 34名 35名

## 【1. 現状と課題】

### ① 自施設の現状

- ・届出入院基本料 一般病棟 10対1入院基本料、療養病棟入院基本料 1
- ・平均在院日数（18日～21日）
- ・病床稼働率 一般病棟 86% 療養病棟 94% 全体 90%（直近1年）

特徴 人工透析治療を主とした、泌尿器科の診療が中心、一般病棟、療養病棟を持つケアミックスの病院である。一般病棟もどちらかといえば慢性期寄りであり、4機能で言えば慢性期寄りに位置する。一昨年前に救急告知病院として、再指定を受けたが、診療科目及び現状の機能から二次救急輪番病院としては機能していない。今年度より、サポート病院として、内科系の救急受入を中心として宇部・山陽小野田圏域の救急輪番に参加している。

また、3年前に新棟を建築、同一敷地内に介護関連施設を持つ。

デイサービス、訪問介護、居宅介護、サ後住（47部屋 49人）、訪問看護ステーション

### ② 自施設の課題

診療科目も少なく、どちらかと言えば、特化した診療を行う病院として機能している。前述のとおりケアミックスの病院であり、一般病棟も10対1の基本料の届出を行っているものの、慢性期よりの患者の入院が多く、平均在院日数21日以内の維持に苦労している。病床稼働状況は平均すると90%を下回っているが、日単位で見ると100%近い稼働状況の日が増えてきており、現在中止している放射線治療サイバーナイフの再開を進めており、今後は在宅医療との連携を強化し、平均在院日数を少しでも短縮し、短期入院のための病床も確保することが必要である。

当医療圏域に不足している回復期病床（地域包括ケア病床）への一部転換及びその適正病床数の試算。

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

### ① 地域において今後担うべき役割

- ・当院の特徴を生かしたより専門性の高い医療の提供。  
（人工透析治療、放射線治療（サイバーナイフ））

### ② 今後持つべき病床機能

- ・現在、当圏域で不足している回復期機能病床（地域包括ケア病床）への一部転換の検討。

### ③ その他見直すべき点

- ・救急サポート病院としての協力体制の強化（現在は月1回程度）。



【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	40		40
回復期			
慢性期	40		40
休棟等			
(合計)	80		80
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

平均在院日数 21日以内の維持 一般病棟病床稼働率 90%以上 等
--------------------------------------

【4. その他】(自由記載)

--

# 宇部仁心会病院

## 医療機関2025プラン

平成30年10月 策定

### 【基本情報】

医療機関名	医療法人仁心会 宇部仁心会病院
開設主体	医療法人 仁心会
所在地	山口県宇部市寿町三丁目2番26号
許可病床数	47床
（病床の種別）	一般病棟 22床 療養病棟 25床
（病床機能別）	急性期 22床 慢性期 25床
稼働病床数	47床
（病床の種別）	一般病棟 22床 療養病棟 25床
（病床機能別）	急性期 22床 慢性期 25床
診療科目	心臓内科・循環器内科・腎臓内科・内科
職員数	52名
・ 医師	3名
・ 看護職員	23名
・ 専門職	20名
・ 事務職員	6名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入金基本料	一般病棟	急性期入院基本料4
	療養病棟	20対1入院基本料
平均在院日数	一般病棟	12.7日
	療養病棟	57.6日

現状：人工透析患者に対する療養及び心臓カテーテルを中心とした急性期医療

② 自施設の課題

地域の高齢化に伴い、地域医療への貢献及び増加傾向にある人工透析患者への受入態勢の再検討が必要である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

地域病院としての診療所からの入院受入態勢・連携の強化を充実させていく役割

② 今後持つべき病床機能

透析患者・心臓疾患患者への対応で現状の急性期・慢性期の病棟機能を整備する。

③ その他見直すべき点

充足する人員の不足が看護職員のみならず、他専門職種においても不足傾向にあるため、人員の長期的な確保が必要である。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	22		22
回復期			
慢性期	25		25
休棟等			
(合計)	47		47
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

# 医療法人 和同会 宇部リハビリテーション病院

## 医療機関2025プラン

平成30年10月 策定

### 【基本情報】

医療機関名	医療法人和同会 宇部リハビリテーション病院
開設主体	医療法人
所在地	山口県宇部市大字西岐波 229 番地の 3
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	232 床 及び (介護医療院 120 床) 療養病床 232 床 慢性期 192 床、回復期 40 床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	232 床 及び (介護医療院 120 床) 療養病床 192 床 慢性期 192 床、回復期 40 床
診療科目	内科、神経内科、精神科、リハビリテーション科、放射線科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、小児科、
職員数	
・ 医師	11
・ 看護職員	114
・ 専門職	146
・ 事務職員	20

## 【1. 現状と課題】

### ① 自施設の現状

届出入院基本料 療養病棟入院料 I  
回復期リハビリテーション病棟入院料2

### ② 自施設の課題

- ・急性期医療を受けた後の医療が必要な患者及び在宅等で急性増悪した患者の受入れ機能を充実させ地域のニーズに答える。
- ・介護療養病床を介護医療院に転換して、一定の医学的管理の下、長期の医療・介護が必要な人に対する施設としての機能強化を図る。

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

### ① 地域において今後担うべき役割

- ・急性期医療を受けた後の医療が必要な患者及び在宅等で急性増悪した患者の受入れ機能を一層充実させたい。

### ② 今後持つべき病床機能

現在の病床数の中で、在宅復帰機能を強化するため、慢性期機能と回復期機能の割合を変更し回復期機能を提供する病棟の整備について検討する。

### ③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	40		92
慢性期	312		140
休棟等			
(合計)	352		232
介護保険施設へ移行予定			120
うち、介護医療院			120

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
30年度	介護医療院への転換	平成30年9月1日介護医療院に120床転換実施

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

# 宇部西リハビリテーション病院

## 医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

### 【基本情報】

医療機関名	医療法人 和同会 宇部西リハビリテーション病院
開設主体	医療法人 和同会
所在地	宇部市大字沖ノ旦797番地
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	250床 (328床/H30/9月末現在) 療養病床 250床 (※介護病棟78床は、10/1付で介護医療院へ転換済) 回復期 121床、慢性期 129床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	250床 療養病床 250床 回復期 121床、慢性期 129床
診療科目	内科・消化器内科・神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科 放射線科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	511名 12名 233名 210名 56名



## 【1. 現状と課題】

### ① 自施設の現状

- ・療養病棟入院基本料1 ・回復期リハビリテーション病棟入院料1
- ・地域包括ケア病棟入院料2
- ・平均在院日数 159.1日 ・病床稼働率 91.2% (H29年度実績)
- ・特徴 回復期リハ・地域包括ケア病棟を併せた回復期機能病床121床を中心に、急性期医療と在宅との橋渡しを念頭に置いた医療提供に努めている。

### ② 自施設の課題

- ・地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関として、今後益々需要が拡大する在宅医療の後方支援病院として、支援機能のより一層の充実が課題である。

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

### ① 地域において今後担うべき役割

- ・回復期機能病床と療養病床との連携を軸に、チーム医療と365日毎日リハビリテーションの提供に努め、患者の在宅復帰に貢献する。(地域における回復期機能の一翼を担う)
- ・急性期病院における在院日数短縮に伴う退院促進化により、より重度な状態での患者受入ニーズが高まることから、スムーズな連携が行えるよう診療態勢の強化を図っていく。
- ・慢性期医療における高齢者救急対応についても、ニーズは今後益々高まる見通しにあり、加えて地域包括ケアシステム構築を進めるうえでも、在宅医療機関との連携をさらに強化し、そうした患者を持続、安定して受け入れられる態勢を整備していく。
- ・救急告示病院としての機能強化  
※宇部・山陽小野田・美祢広域医療圏における病院群輪番制サポート病院としての貢献

### ② 今後持つべき病床機能

- ・新たに必要(増床も含め)と考える病床機能としては、特に計画は有さないが、現在保有する回復期リハ(81床)・地域包括ケア(40床)・医療療養(129床)と、介護医療院(78床/H30.10.1付けで開設)を交えた効率的なベッドコントロールに注力し、当院での治療、療養を希望される患者の医療ニーズに積極的に応えていきたい。

### ③ その他見直すべき点

特になし

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	121		121
慢性期	129 (207)		129
休棟等			
(合計)	250 (328)		250
介護保険施設へ移行予定	(78) (10/1付で転換済み)		0
うち、介護医療院	(78)		0

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
H30年度	H30.10.1付で、従前の介護療養型医療施設78床については、介護医療院へ転換実施済み	実施済み

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

特になし
------

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

特になし
------

【4. その他】(自由記載)

特になし
------

# シーサイド病院

## 医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

### 【基本情報】

医療機関名	医療法人太白会 シーサイド病院
開設主体	医療法人太白会
所在地	宇部市大字東岐波字丸尾 4322-1
許可病床数	210 床
（病床の種別）	回復期病床 51 床、医療療養病床 104 床、介護療養病床 55 床
（病床機能別）	回復期 51 床、慢性期 159 床
稼働病床数	210 床
（病床の種別）	回復期病床 51 床、医療療養病床 104 床、介護療養病床 55 床
（病床機能別）	回復期 51 床、慢性期 159 床
診療科目	内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、アレルギー科 リハビリテーション科
職員数	166
・ 医師	6
・ 看護職員	56
・ 専門職	32
・ 事務職員	15

## 【1. 現状と課題】

### ① 自施設の現状

届出入院基本料	平均在院日数	病床稼働率	(平成29年度)
回復期-回復期リハビリテーション病棟入院料4	91.1日	81.5%	
慢性期-療養病棟入院基本料1	171.6日	75.7%	

### ② 自施設の課題

療養病床の在宅復帰率について、復帰率の維持が困難になるため一般病床からの紹介を受けられるよう近隣の病院との連携を一層深めることが必要

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

### ① 地域において今後担うべき役割

引き続き地域の中で急性期医療後の受け皿としての役割を担っていく

### ② 今後持つべき病床機能

- ・回復期リハビリテーション病棟は現在の規模で維持する。
- ・今年度中に介護療養病床を介護医療院に転換する。

### ③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	51		51
慢性期	159		104
休棟等			
(合計)	210		155
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		55

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2018	介護療養病床55床を介護医療院に転換	病院から住まい（施設）へと変わり地域に開かれた交流施設として地域に貢献する。

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--